



東京都立 青山高等学校

■学校長／小澤 哲郎
■創立／昭和15年
■生徒数／881名(男457名、女424名)

沿革

昭和15年、東京府立第十五中学校として開校。昭和18年、東京都立第十五中学校に校名を改称し、昭和21年、東京都立多摩中学校を統合して東京都立青山中学校となる。昭和23年に東京都立青山高等学校となる。昭和33年、校舎を現在地に竣工移転。平成9年に新校舎竣工。

特色ある教育

本校の目指す学校像は、「国公立大学を目指す進学校」で、かつ「知・徳・体のバランスのとれた全人教育を推進する進学校」です。進学指導重点校として多大な教育成果をあげています。

「高きを望め 青山で」を合言葉に、生徒は学習に意欲的に取り組み、難関国公立大学、難関私立大学に多数の合格者を出しています。また部活動も盛んで、全校生徒の9割以上が部活動に参加し、勉強と両立させています。さらに学校行事も、体育祭、文化祭など生徒が自主的に運営し、大いなる盛り上がりをみせています。特に「外苑祭」といわれる文化祭は、全クラスがミュージカル・劇を上演し、2日間で8500人以上の来場者がある青山高校最大の学校行事です。

勉強にも部活動にも学校行事にも積極的に取り組み、青春を謳歌しながら、難関大学への進学を果たすのが、青山高校の教育です。

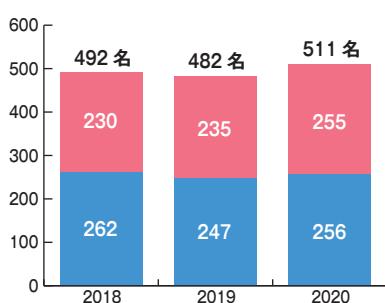
学校行事

- 【4月】 入学式、進路ガイダンス(3年)
- 【5月】 遠足(1・2年)、進路ガイダンス(1・2年)
- 【6月】 体育祭、歌舞伎鑑賞教室(1年)、能楽鑑賞教室(2年)
- 【8月】 部活動合宿、外苑祭(文化祭)
- 【10月】 特別講演会
- 【12月】 大学模擬講義(1・2年)
- 【2月】 球技大会(1・2年)
- 【3月】 卒業式、修学旅行(2年)

過去入試データ

■受験者男女比

■男子 ■女子



入試結果のデータ一覧（応募・受験・合格）

年度	募集者数			応募者数			受験者数			合格者数			実質倍率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2018	149	137	286	304	251	555	262	230	492	151	140	291	1.74	1.64	1.69
2019	131	119	250	285	250	535	247	235	482	133	122	255	1.86	1.93	1.89
2020	130	120	250	310	270	580	256	255	511	132	123	255	1.94	2.07	2.00

※上記は一般入試の数値です。



校舎写真▲



交通

東京メトロ銀座線外苑前駅より徒歩3分。都営大江戸線国立競技場駅より徒歩15分。JR中央・総武線千駄ヶ谷駅または信濃町駅より徒歩15分。

▶ 入学者決定方法 (2020年度)

推薦入試(定員の10%)		一般入試(定員の90%)			
募集定員	配点	募集定員	配点		
男子14名	調査書点 5段階×9教科× $\frac{450}{45}$	450点	男子130名	学力検査100点×5教科× $\frac{700}{500}$	700点
女子13名	集団討論・個人面接点	150点	女子120名	調査書点(主要5教科+技能4教科×2)× $\frac{300}{65}$	300点
合計27名	小論文点	300点	合計250名		
	合計	900点		合計	1000点

▶ 2020年度 入試問題分析

英語

昨年度と同じで長文が2つ、かつ②が対話文、③が説明文の形式だった。文量にも大きな変化はなく、②は3ページ分、③は2ページ強の文量だった。②は選挙の話から社会問題に対する若者の意識について4人の登場人物が議論を進めていく文章である。(問1) (問3) (問5)は前後の文とのつながりを理解する必要がある。(問2)の並べ替えはafraidの後に接続詞thatの節がくることと、選択肢後のbetterからmakeを用いた第5文型を用いると理解すれば解ける問題である。(問4)は前後関係に加えて、会話の自然な流れを考えられる読解力が必要になる。(問6)の内容一致は昨年度と同形式で、文章全体の内容を理解していないと正解までたどり着けない。(問7)の英作文は文章内容をふまえる必要のない問題だったため、書きやすかったと考えられる。③は数学が科学に与えている影響についての文章だった。(問4)以外はすべて文章内容に一致する答えを選ぶ問題だった。下線部を含む段落に加え、その前後段落の内容を理解できていれば解けるレベルである。(問4)は② (問4)と同じく、文章の流れを読み解く必要がある。40分で2300語近くの文章を読み、かつ各大問最後の内容一致で得点するために、ある程度どこに何が書いてあるのかを把握しながら読み込んでいかなければならない。1度で内容の6割から7割を理解できるよう、英語長文になれる必要が不可欠である。

数学

大問4題、小問14問の問題構成とその配点は今年度も変わっていない。①は小問形式で(問1)正負の数の計算、(問2)連立方程式、(問3)確率率、(問4)度数分布、(問5)作図で、昨年度と同程度の難度であった。②～④の問題も出題された単元は昨年度と同じであった。②の二次関数の問題は(問2)が小問2つに分かれていた。それぞれの条件は独立しているので、(1)が解けなくても(2)を解くことはできる。また、難度は標準的であった。③は円を題材にした平面図形の問題である。(問1) (2)で証明の問題が出題されたが、いくつかある相似な三角形から自分で選んで証明する問題であった。昨年度のように「自分で選ぶ」ことで問題が完成するパターンに今年度も戸惑った受験生もいただろう。そして(問2)は難度が高い問題が出題されている。④は立体図形の辺上を点が動く問題で、(問1)では2秒後、(問2)では条件を満たすとき、(問3)では8秒後と、動点問題であるがいずれもある瞬間にについて考えるの、比較的解きやすかった。

全体を通して難度は昨年度よりは易化していた。③は易度が高く時間を要する問題になっていたため、時間配分を意識して最後に取り組むなど対応が必要である。

国語

大問5題、出題構成も内容も例年通りである。長文3題は昨年度同様、記号選択式と記述問題を組み合わせた問題形式となっている。

①・②漢字の読み書きでは、昨年度に引き続き語彙力が求められている。③小説文は、宮下奈都『アンデスの声』からの出題。小問は選択式が5問、50字以内の記述が1問。記述は「私」の状態を表す比喩を具体化するもの。昨年度より小問が1問増えている。④論説文は、丸山圭三郎『言葉とは何か』からの出題。小問は選択式4問、適箇所の抜き出し1問、200字作文である。昨年度の35字以内の記述がなくなり、選択式が3問から4間に増えた。⑤融合文は、清川妙『清川妙の萬葉集』が出版で、96年都立共通問題と同じ文章が出題されているが、引用はより長い。小問5問、抜き出し1問の計6問。文法問題が1問含まれていた。全体として和歌に関する解釈を問う出題が多く、この⑤をいかに早く正確に解けるかが重要だった。

記述問題が昨年度の3問から1間に減少したが、その分小問数は増えている。長い文章を早く正確に読み取り、選択問題をより客観的に選択するために、ふだんから文章全体の流れを追うことが必要となる。

▶ 2020年度 大学合格実績

実績数値は現役・浪人の合計数。()の数字は現役合格者の数。

東京大	2名(2名)	千葉大	16名(10名)	東北大	4名(3名)	早稲田大	88名(79名)	立教大	68名(54名)
京都大	7名(5名)	東京農工大	4名(2名)	東京外語大	8名(5名)	慶應義塾大	58名(50名)	中央大	43名(32名)
東京工業大	4名(2名)	電気通信大	2名(2名)	お茶の水女子大	5名(5名)	上智大	45名(39名)	法政大	51名(46名)
一橋大	8名(6名)	横浜国大	11名(8名)	東京学芸大	6名(4名)	明治大	129名(108名)	日本大	19名(12名)
北海道大	13名(9名)	東京都立大	3名(3名)	筑波大	4名(4名)	青山学院大	43名(38名)	学習院大	8名(5名)
国公立大合計		122名(86名)							